

世界人類との共生

企業理念を「共生」とした背景

キャノンが「共生」を企業理念としたのは、1988（昭和63）年、創立50周年の翌年である。当時、社長であった賀来龍三郎（現在は名誉会長）は、51年目を迎えるにあたり、もう一度初心に帰り、第二の創業という視点に立って、今後50年にふさわしい理念を模索していた。

その結果、一企業や一国の利益を越え、全人類の幸福と繁栄を目標とする新しい企業風土を形成するため、世界人類の共存と発展、すなわち共生をキャノンの新しい企業理念として掲げた。この理念によりキャノン一世紀の向かうべき姿がはっきりと示された。

内容

「共生」という理念は、キャノンが地球社会全体に対して真の社会的責任を全うする企業、すなわち「真のグローバル企業」をめざそうという決意を表明したものだ。現在、地球上には貿易不均衡、南北問題、環境汚染などさまざまな問題が山積している。これまで、このような問題の解決は、政治ないし行政の役割だと考えられていた。しかし、ボーダレスの時代に入った今日の経済社会では、グローバルに展開する企業人こそ、こうした問題の解決に努力するのにふさわしいし、また、その責任があると考えている。

キャノンは共生の理念の実現のために、世界各地に研究所や工場を作り、技術の移転ならびに現地での雇用や輸出の拡大に貢献している。また、競争相手との関係についても一部の企業とは共生の精神に基づいて密接に協力

し合っており、双方に恩恵をもたらしている。

共生の英語訳

共生の英語訳は“Living and Working together for the common good”である。

コモングッドとは平和、自由、民主主義などの価値をさす。しかし、これらの価値観は「共に生きていく」ための必要条件の一部にすぎない。共生の理念という十分条件があってはじめて、諸々の必要条件が必要にして十分な条件になりうる。さらに「世界各地で起きている民族抗争や宗教紛争も共生の理念のもとに解決してもらいたいものだ」とまで説明すると、理解を示す外国の方も多し。ただし、最近では“kyosei”と言っただけでも通じるほど認知されるようになった感があり、喜ばしい限りである。

世界人類との共生のために 真のグローバル企業をめざす キャノン

企業理念

世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること
そのために企業の成長と発展を果たすこと

企業目的

国境を越え、地域を限定せず、しかも積極的に
世界全体、人類全体のために社会的責任を遂行
すること
(真のグローバル企業の確立)

世界一の製品をつくり、最高の品質とサービスを
提供し、世界の文化の向上に貢献すること
(バイオニアとしての責任)

理想の会社をきずき、永遠の繁栄をはかること
(キャノングループ全員の幸福の追求)